

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和2年度12月

○ 概要

(1) 令和2年12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は、6,756億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲1.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は、9,983円（伸び率+8.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,691億円（伸び率▲4.1%）薬剤料が5,051億円（伸び率▲0.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,063億円（伸び率+12.7%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,962円（伸び率+9.2%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.78種類（伸び率▲0.9%）、28.7日（伸び率+14.4%）、75円（伸び率▲3.7%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,035億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲22億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは21循環器官用薬の704億円（伸び幅▲9億円）で、伸び幅が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の+45億円（総額702億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,035億円 (▲22億円)	21 循環器官用薬 (704億円)	39 その他の代謝性 医薬品(702億円)	11 中枢神経系用薬 (666億円)
0歳以上 5歳未満	23.4億円 (▲8.4億円)	44 アレルギー用薬 (9.4億円)	22 呼吸器官用薬 (4.0億円)	61 抗生物質製剤 (3.6億円)
5歳以上 15歳未満	81.9億円 (▲13.3億円)	44 アレルギー用薬 (30.7億円)	11 中枢神経系用薬 (23.5億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,438億円 (+8億円)	11 中枢神経系用薬 (309億円)	39 その他の代謝性 医薬品(268億円)	21 循環器官用薬 (216億円)
65歳以上 75歳未満	969億円 (+17億円)	39 その他の代謝性 医薬品(204億円)	21 循環器官用薬 (195億円)	42 腫瘍用薬 (134億円)
75歳以上	1,523億円 (▲26億円)	21 循環器官用薬 (288億円)	39 その他の代謝性 医薬品(224億円)	11 中枢神経系用薬 (224億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,983円（伸び率+8.3%）で、最も高かったのは北海道（11,983円（伸び率+10.2%））、最も低かったのは佐賀県（8,159円（伸び率+3.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは栃木県（伸び率+11.0%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率+3.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	81.9%	+2.0%
薬剤料ベース	21.0%	+2.5%
後発品調剤率	77.6%	+1.4%
（参考）数量ベース（旧指標）	58.5%	+3.2%

注) [(後発医薬品の数量) / ((後発医薬品のある先発医薬品の数量) + [(後発医薬品の数量)])] で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+12.7%	+29.1% (95歳以上 100歳未満)	▲15.4% (5歳以上 10歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.0%	30.0% (100歳以上)	12.8% (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.9%	86.6% (100歳以上)	76.2% (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	917億円 (+100億円)	21 循環器官用薬 (276億円)	11 中枢神経系用薬 (144億円)	23 消化器官用薬 (115億円)
0歳以上 5歳未満	8.5億円 (▲1.2億円)	44 アレルギー用薬 (4.4億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5億円)	61 抗生物質製剤 (0.7億円)
5歳以上 15歳未満	17.3億円 (▲3.8億円)	44 アレルギー用薬 (10.5億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9億円)
15歳以上 65歳未満	302億円 (+18億円)	21 循環器官用薬 (80億円)	11 中枢神経系用薬 (58億円)	44 アレルギー用薬 (36億円)
65歳以上 75歳未満	221億円 (+29億円)	21 循環器官用薬 (85億円)	23 消化器官用薬 (27億円)	39 その他の代謝性 医薬品(23億円)
75歳以上	368億円 (+59億円)	21 循環器官用薬 (112億円)	11 中枢神経系用薬 (62億円)	23 消化器官用薬 (54億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,570円	2,054円(北海道)	1,275円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+23.8%	+28.1%(栃木県)	+18.5%(佐賀県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.9%	89.5%(沖縄県)	77.8%(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.0%	25.0%(鹿児島県)	18.1%(京都府)
後発医薬品調剤率	77.6%	84.2%(沖縄県)	72.5%(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.5%	66.6%(沖縄県)	54.2%(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。